

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。 (2) 基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。 (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがえのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。 (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活を送れる生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ① 基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心や挑戦心をもつ、知性と創造性を備えた生徒 ② 豊かな個性をもち、自己を律することができるとともに、自らや他者をかけがえのない存在として認識し、協調性や協同性とたくましさをもった生徒 ③ 自己の在り方生き方を考え、地域社会や国際社会の一員として活躍することができる見識と行動力を備えた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ① 学力の向上を図るため、習熟度別や少人数による指導、ICT等を活用した指導など個々に応じた「わかる」授業の実施 ② 多様な進路志望に応じた、進路希望別クラス編成(特進クラスなど)、国際交流推進、部活動活性化(エキスパークラブ)、高大連携等を包括したカリキュラムの編成と実施 ③ 多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した総合的な探究の時間や生徒会行事、地域の人材資源を有効に活用した地域活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ① 主体的な探究心と実践への意欲をもち、高い志を掲げて積極的に学習活動に取り組む生徒 ② 真摯な態度で己を律することができ、思いやりの精神と仲間とともに切磋琢磨できる気概をもった生徒 ③ 地域に愛着をもち、他者と協調し、協働しながら、社会に貢献しようとする意欲のある生徒

【① 教務部】

3 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導・(情報管理)
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象の授業評価アンケートの結果が全体的に向上している。特に、「授業中の指示・発問・説明などが明確でわかりやすい」(77.3%→87.2%)や「授業の進む早さはちょうどよい」(71.6%→86.1%)の項目に関して、「非常に思う・思う」と回答している生徒の割合が増加しており、保護者を対象としたアンケートにおいても、学力が向上していると回答した保護者の割合が増加した(58.5%→60.6%)。授業中に知識を・技能を活用する場面があり、主体的に参加できる展開になっていることも原因になっている。 ICTを活用した授業展開を行い授業の改善を行っている教科は増加しているが、「取り組みやすいと思う」と回答している生徒は全体の83.2%であり、昨年度の66.6%から向上した。教職員のICTを活用した実践が積極的に行われ効果的に作用している。 (情報管理) <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、個人情報の管理に関して適切に管理していると評価した生徒は76.1%(昨年度は78.0%)、保護者は62.5%(昨年度は58.0%)であった。複数の教員で確認し、最新の注意を払う必要があるが、生徒・保護者に情報の管理について不安を与えないような方策を再考する必要がある。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎学力の向上：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力。行減力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。

	◇情報管理：校務の情報化を推進し、情報の共有化・校務の効率化を図る。個人情報への取扱いについて細心の注意を払い、事故防止に努める。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の初期指導、習熟度別の授業展開、ICT機器等を活用し理解に努め、個々の実態に応じた授業展開の推進を行う。 ・県の成績処理システム、Microsoft TeamsやFormsなどを有効利用し、校務、生徒の活動の効率化を図る。 ・セキュリティーチェックシートを活用し、情報セキュリティー意識を向上させる。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業を実施 ・生徒による授業評価の実施と分析により授業計画の変更と見直し、実践を行う。 ・教員の指導力向上やICTを活用した授業の研究のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施する。 <p>(2) 学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業展開の充実、家庭学習の定着を図る学習指導体制の推進 <p>(3) 情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティー意識を向上させ、事故防止に努めるとともに、発生した際に適切な対応をとることができる。 	<p>(1) 授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の実施・分析により、授業改善に役立てることができたか。 ・授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施し、授業の改善に生かすことができたか。 <p>(2) 学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌、教科、学年と連携し、組織的に学力向上を図ることができたか。 ・ICT等を活用するなど、学習活動を充実する実践を行うことができたか。 <p>(情報管理)</p> <p>(3) 情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績管理システムの運営を複数で行い、情報管理に関してミスがないように点検できたか。 ・生徒の個人情報については、確実に処理することができたか。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>①授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開と研究授業の推進 ・学校生活に関するアンケートの実施・分析 <p>②学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用など、学習指導を充実する取り組みを行った。 <p>(情報管理)</p> <p>① 情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティーチェックを利用し、教員の情報セキュリティーに関する意識を高め、業務に反映させる実践 	<p>①授業改善に向けた実践を行うことができたか。授業評価、授業研究・校内研修が授業改善に活用できたか。</p> <p>②ICT活用について、教員がそれぞれ実践した教材等について生徒に還元できる。</p> <p>③職員の情報セキュリティーに関する意識を向上させ、複数でチェックを行い、ミスが発生しない。</p>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
12 成果・課題	<p>○習熟度別授業により、生徒の実態に合った授業内容を行うことができ、学力の定着に繋げることができた。</p> <p>○生徒による授業評価の結果より、授業の目的や活動する場面が明確であるなどの評価が高く、授業に向かう意欲が高くなった。</p> <p>▲学習習慣定着までには至っていない。家庭における学習習慣を身に付けさせるための工夫などの課題が残る。</p> <p>▲コース登録について生徒の進路選択へのミスマッチが起こらないようにする指導体制の構築が必要である。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<p>(1) 授業評価アンケートにあった生徒の意見を職員にも情報提供をした。意見を踏まえ、授業改善に努めていく。</p> <p>(2) 来年度は新教育課程を全学年で実施することになる。過去の実践を踏まえ、生徒の実態に合わせた教育課程の再編成を行い、主体的に学ぶことができる学習環境を再構築する。</p> <p>(3) 総合的な探究の時間など、ICTを教科指導以外の諸活動でも活用している場面が出てきている。ICT活用そのものが目的になってはいけないが、使用して効果的な活動が実施できるよう研究を行う。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・ グラデュエーション・ポリシーを基礎として、カリキュラムやICTを活用した教育に重点を置いて様々なことが計画され、改善まで行われているのはすばらしい。
- ・ ICT環境の整備や活用は一校だけで進めていくのは難しい、学習活動の中での現在のシステムの活用の工夫に加えて、県全体のクラウド環境が整備されることは大切である。
- ・ 授業アンケートの結果から、先生方の努力が成果を上げていると感じる。生徒に家で学習する習慣が身に付いていけば、さらに成果が上がる可能性がある。

【② 生徒指導部】

3 評価する領域・分野	◇生徒指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの生徒は、学習や部活動、生徒会行事等に熱心に取り組み、ルールを遵守し、校外での挨拶を含め規律ある生活ができています。 ・ 身だしなみに関してやや乱れが見られる。(全職員での指導が必要) ・ いじめや差別に対する指導、薬物乱用や情報モラルに関する指導、公共心を育てる指導に関して今後も育むプログラムを計画する。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 集団生活における基本的な生活習慣を身に付けさせる。 (2) 自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。 (3) 規範意識を育み、ルールやマナーを守る生徒を育成する。 (4) 全職員の共通理解のもと生徒指導体制の組織を強化する。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	職員、保護者、関係諸機関の連携を積極的に行い、生徒指導体制を強化する。また、学年会と連携して個々の生徒の生活指導にあたる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導や遅刻防止指導、届出などを通して、規律ある生活態度を定着させる。 (2) 交通安全指導を通して、安全で安心できる生活のための啓発活動を行う。 (3) 諸問題に対して危機意識を持たせ、問題行動や被害などの未然防止に努める。社会生活を営む上でルールやマナーの遵守を呼びかける。 (4) 全職員による共通理解及び共通行動のもとで生徒指導が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 遅刻者の状況や身だしなみ指導の結果から、望ましい生活習慣の達成度を確認する。学年会と連携して、日常的に生徒指導ができていのかを確認する。 (2) 交通安全指導での様子や登下校時の交通事故や校内での生徒の様子から、生活状況を観察する。 (3) 落とし物や紛失物の様子から貴重品管理や記名などの達成度を確認する。学年会との連携を図る。 (4) 情報交換会や学年会との連絡を密にし、ルールや申し合わせなどの周知徹底状況を確認する。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) ①生徒個々の遅刻回数の記録と個別指導。 ②定期的に一斉身だしなみ指導を実施。 ③身だしなみ確認カードで日常的に指導。 (2) ①登下校指導、自転車点検、交通安全講話、薬物乱用防止講座などを実施する。 ②掲示用プリントや全校集会で不審者や迷惑行為、盗難などの情報を伝える。 (3) クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でルール・マナー遵守を啓発する。 (4) 職員会議や研修などで、ルールを周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 遅刻の減少や身だしなみの改善などがみられたか。 (2) 交通事故や迷惑行為が減少したか。適切な対応がされたか。 (3) 安心して学ぶ環境作りに取り組むことができたか。 (4) ルールやマナーの遵守について機会を捉えて指導できたか。 (5) 全職員の共通理解のもとでの生徒指導はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ブレザー、ネクタイ、リボンの着用状況はよくなった。(11～4月は着用) ○自転車の運転マナー(右側通行や並列進行など)は改善されている。 ○毎朝職員が正門で登校指導を行うことで学校付近の安全性が大きく向上した。 ・ ○不審者等の情報がすぐに生徒に伝えることで注意を促すことができた。 	総合評価
		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

課題	<p>○今年度からはMSリーダーズの活動を例年通りに行うことができ、地域清掃活動や通学安全指導などを行うことができた。</p> <p>○学年団との情報共有や連携を図ることで迅速な事案への対応や予防的な対応をとることができた。</p> <p>▲遅刻の数が学年によって差が大きい。(特に冬季に増加傾向・1日平均15人前後)</p> <p>▲交通事故は自損事故を含めて1月までに14件。</p> <p>▲自転車の運転・通行マナーに関しては、学校付近では改善が見られるものの離れた場所での並進走行やイヤホンの使用なども見られる。</p> <p>▲身だしなみ(特に女子のスカート違反)がまだまだ改善されていない。</p> <p>▲SNS上での大きなトラブルはなかったが、人間関係の構築がうまくできない生徒や他者に対して不信感をもつ生徒がいるため良好な人間関係作りをするためのプログラムを企画する必要がある。</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 全校体制で予鈴前に教室に入る指導を継続する。(チャイムの鳴り始めで「遅刻」の徹底)</p> <p>(2) 身だしなみや挨拶指導(生徒指導)は全員でやる。不適切な場合はその場で直させる。指導基準の明確を図る。</p> <p>(3) 貴重品ボックスの適切な使用方法についての指導を徹底し、生徒の自己管理能力を向上させる。</p> <p>(4) 心を育てる教育のために教育相談部と連携して教育プログラムや職員研修を企画する。</p> <p>(5) 問題行動が起きたときの対応について、誰もが初期指導できる体制を作る。(生徒指導力の向上)</p> <p>(6) 全職員の共通理解をはかるため、職員会議や研修でルールなどを周知する機会をつくる。</p> <p>(7) 保護者とも情報共有を図り、気になることがあれば職員に相談や報告をしてもらうようにし「チーム学校」で対応する。</p> <p>(8) 日々の言葉がけを意識する。(褒める、励ます、認める)</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書を読むと、懸命に生徒と向き合って活動していることがわかる。大変なことだと思う。 ・グラデュエーション・ポリシーの中にある「自己を律する」「自らや他者をかけがえのない存在として認識」ということを軸にして活動を計画して進めていくとよい。 ・遅れてくる生徒は中学校でも特定される。生活習慣はなかなか改善が難しい。見える化という話があったが、状況を保護者が気づいていない場合もあり、高校から情報を提供して遅刻していることを意識化させないといけない。大変だと思うが、今後も、回数を意識させる工夫や家庭との連携を続けてほしい。 ・各務原市消費生活相談室では、若い人向けに消費生活講話を行っている。若年の成人の方のSNSトラブルが、18歳成人になってから増加している。トラブルを防止するためにも、活用していただけるとよい。

【③ 進路指導部】

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の7割以上が進路情報の提供や、進路指導のあり方について肯定的な評価をしている。オンラインと対面を内容に応じて使い分けることで、生徒のニーズにより細かく対応できたのではないかと考える。 ・保護者の方からも、必要とする情報提供に関しては8割程度、生徒の進路希望に沿った適切な指導に関しては7割程度の方から肯定的な評価を頂いており、一定の理解を得ていると考えられる。 ・本校で最も特徴ある教育活動という質問に対して、進路学習と答えた割合が、2年生保護者の方において少なかった。インターンシップやオープンキャンパスなど中心となって進路行事に取り組んでいる学年であることを保護者の方へもより分かりやすく伝えていく必要があると考える。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の進路希望や発達段階に応じた情報提供とキャリア教育の推進。「生きる力」を身に付けるための指導を充実させる。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心とし、進路指導部内の各学年担当がイニシアチブをとり、各学年団と連携する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 多様化する入試制度に対応できる力を身に付ける。 (2) 個々の生徒の進路実現に向けた進路行事の実施	(1) 授業により基礎学力を向上させ、補習授業と全国における学力を測るための外部模擬試験の実施により、受験に対応できる学力が育成されているか。また、小論文指導や面接指導により表現力を向上させることができていないか。 (2) 総合的な探究の時間やLHRを利用した進路行事が、目標実現に向けて進路意識が高め、進路決定に寄与するものとなっているか。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・1年：職業観・勤労観の育成 進路講演会、キャリアガイダンス、インターンシップ、大学模擬講義、進路ノート、放課後補習、夏季補習、スタディサポート、小論文指導、模擬試験 ・2年：進路目標の設定 進路講演会、インターンシップ、大学模擬講義、小論文指導、放課後補習、夏季補習、スタディサポート、模擬試験 ・3年：進路目標の実現 受験ガイダンス、進路講演会、小論文指導、面接指導、放課後補習、夏季補習、共通テスト受験生向け特別補習、スタディサポート、模擬試験 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種進路ガイダンスが、進路意識の高揚を図り、3年間を見通した段階的な支援となっているか。 ② 生徒が意欲的に進路関係の行事に取り組み、自己実現を目指して努力する環境ができていないか。 ③ 受験・就職に対応できる学力・能力が身に付いているか。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
12 成果・課題	<p>○共通テスト志願者数は54%であった。多様な進路に対応し、最後まで学力を付ける指導をさせた。進路講演会・キャリアガイダンス・模擬講義等をオンラインも活用しながら実施し、生徒の進路選択に役立てた。</p> <p>○模試を受験するにあたり、目標を設定し家庭学習を行わせると同時に、各教科で過去問を扱い対策をとるなど、学力をつけさせる指導を行うことができた。</p> <p>○総合型選抜や学校推薦型選抜に対応するため、全職員体制で面接指導や小論文指導を実施することができた。</p> <p>▲模試の活用について、効果的な振り返りをさせるなど、復習により力を付けさせる指導が必要である。</p> <p>▲明確な進路意識を持ち進路決定をしていくため、1年次からキャリアへの関心を高め、自ら考え自己表現する力を育てる必要がある。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案		

- ・総合型選抜や学校推薦型選抜に重きが置かれつつある昨今の傾向をふまえ、生徒の学力の向上を図るとともに、自ら考え表現する力を育てるため、小論文指導者や面接指導者の指導力向上を図る。
- ・進路実現のための教職員間の協力体制をより強固なものとし、生徒や保護者が相談できる環境をさらに整える。
- ・確かな学力を身に付けて進学できるよう、授業を大切に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる。
- ・外部の教育力を精選して活用し、インターンシップ等、キャリア教育を充実させる。
- ・複雑化する入試制度に対応できるよう、生徒や保護者に向けて最新の情報を随時提供し、学校と家庭の連携のもと進路実現を目指す。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・様々な進路希望があり、その実現に向けて、インターンシップなど学校としても様々な取組を行ってよく努力していることがわかった。
- ・今後の入試や就職試験では自分で表現する力が今後はより一層大切になる。自分の考えをきちんと文章で表現するためには、知識と経験が必要になる。多様な経験を積み重ねて、うまくつなげていくことができるとよい。
- ・適切な時期に適切な行事が行われることが大切である。よく考えて行事が組まれている。

【④ 特別活動部】

3 評価する領域・分野	・学校行事（企画・運営）、部活動、生徒会	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭（新生祭）と球技大会をより充実したものにすることが求められる。 ・生徒会活動をさらに活発にしていくことが望ましい。・？ ・学習と部活動を両立させ、充実した高校生活を送ることができるようになることが求められている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校行事の充実と広報活動の充実 2. 部活動を生徒と顧問の共通理解のある生活の質を高める活動にしていく 3. 生徒会の主体的活動の推進と活動内容の充実 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部と生徒会が主体となり、各委員会顧問、部顧問、全校体制で各行事を運営する	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒会主体の学校行事の充実 (2) 他の分掌との連携	(1) 生徒・教員アンケートを実施 (2) 8割以上が概ね満足となる行事	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会等での生徒会主体による学校説明会と部活動のPR ・各高皆議の実施（生徒と教員の意見交流） ・文化祭、球技大会の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校見学会参加の中学生・保護者のアンケート結果 ②学校行事の改革 ③生徒会の主体的活動 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
12 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭をコロナ禍前の形に近づけ実施できた。 ○球技大会をコロナ禍前の形に近づけ実施できた。 ○生徒会活動の推進として「各高皆議」を実施することができた。 ▲文化祭・球技大会の今後の在り方を検討する。 ▲生徒会活動をもっと主体的に充実させたい。 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭のクラスの展示や発表の質を高める。 ・球技大会をより充実し楽しめる内容を検討する。 ・新一年生の部活動加入率を上げる。 	

・生徒会活動の充実と主体的な活動を増やす。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒の数が減っているため、部活動は苦勞されていると聞く。生徒数の減少は部の成績の低下にもつながりやすい。難しい点がいろいろとあると思うが頑張ってほしい。
- ・集団が力を発揮するためには目標を共有することが大切である。One Teamとしての哲学がストロングポイントになる。グラデュエーション・ポリシーがそれにあたると思う。グラデュエーション・ポリシーの中にある「創造性」や「自らや他者をかけがえのない存在として認識する」「挑戦」等は特別活動部の目標にふさわしい内容ではないか。その観点で活動内容を再度見直していただけるとよい。

【⑤ 保健厚生部】

3 評価する領域・分野	保健管理・安全管理	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校では、地震や台風等の場合の対応について、生徒や保護者(地域)に対策マニュアルを示し、説明している。」はA+B(肯定的評価)=92.1%である。高い評価を受けているが、毎年内容を見直ししながら、「命を守る訓練」等の指導、学校HPの掲載などで周知したい。 ・「本校では、清掃が行き届いており校内がきれいである」がA+B=65.4%で、月に1回厚生委員が掃除場所を点検し、掃除担当の先生に確認してもらうことにより昨年度より向上したと思われる。しかし、CやD評価も多いため、引き続き点検を強化していきたい。 ・「生徒の安全・衛生面に配慮し、交通事故や不審者からの被害防止するための安全指導を行っている」についての保護者・運営協議委員会の評価が下がっている。不審者については今年度より「危機管理マニュアル」に記載するなどの対策を取っているが、施錠についてはナンバーロックの場所を増やし、もっと徹底する必要がある。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 保健管理の充実と保健指導の推進 (2) 環境整備の徹底とマナー指導の徹底 (3) 安全な施設設備の維持管理と防災意識の向上	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	保健厚生部の中で保健・環境・防災・厚生の4つの分野に担当を分担。県の指標に基づき新型コロナウイルス感染症防止対策を最優先に実施する。また、防災に関する事業の見直しを段階的に進めていく。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 協力を得て速やかな健康診断の実施と事後指導を実施する。 (2) 感染症予防・感染拡大阻止に向けて全校体制で取り組み、周知徹底を図る。 (3) 委員会を通して資源ゴミの分別を徹底し、環境美化への意識やマナーの向上を図る。 (4) 生徒・職員による定期安全点検を実施する。	(1) 検診結果を分析。受診率の向上を確認する。 (2) うがい・手洗いなど自主的な感染症予防策を実施し、継続的な指導により定着させる。 (3) 委員会活動による掃除のチェックとゴミ回収所の分別状況の把握を実施し徹底する。 (4) 複数の目で安全を確認し、常に事故を予測する力をつける。	

<p>(5) 月1回厚生委員の掃除場所点検を実施する。 (6) 防災計画に基づいて「命を守る訓練」を実施する。 HR委員に防災係を委託し、生徒主体で訓練を実践する。</p>	<p>(5) 生徒・職員の清掃の意識を高める。 (6) 防災係にフィードバックシートを提出させて、訓練の質的向上や全校生徒の防災意識向上への方策を考えさせる。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>(1) 各種健康診断や環境衛生の検査を実施。 (2) 欠席状況調査による生徒の健康状態や感染症防止対策の実施。保健委員による保健衛生活動の実施。 (3) 厚生委員会によるゴミ分別の呼びかけ、回収場所での指導・監視。 (4) 定期安全点検の実施。</p> <p>(5) 月に1回、厚生委員による掃除場所の点検・掃除担当教諭の確認を実施。 (6) 命を守る訓練を3回実施。防災係の事前研修・フィードバックを実施。</p>	<p>10 評価視点</p> <p>(1) 事後指導等を徹底できたか。 (2) 感染症拡大防止に全校体制で取り組めたか。 (3) 委員会を通じて、生徒の環境美化の意識が高まったか。 (4) 施設設備の安全な維持管理に組織的に取り組み、未然に事故を防ぐ力と安全意識を高めたか。 (5) 清掃・整頓に対する意識が向上したか。 (6) 指導により、防災係として緊急時の対応力と意識が向上したか。</p>	<p>11 評価</p> <p>A B C D A B C D</p>
<p>12 成果 ・ 課題</p>	<p>○各種の健康診断や衛生検査は、職員の協力でスムーズに実施できた。事後指導及び措置もHR担任の協力を得て、措置完了者も順調に増えてきている。 ○保健委員会・厚生委員会の生徒は、保健管理や環境衛生に対する意識の高い生徒が多く積極的に活動することができた。また、HR委員による防災係の仕事も明確にすることができた。今後も、生徒自身の活動を活かしていくような計画を立案したい。 ▲環境美化においては、職員室や準備室の清掃、職員トイレは教職員にお願いし、複数の掃除場所の監督にならないよう配置した。今年度より、月に1回厚生委員が掃除場所を点検し、掃除担当の先生に確認を実施した。生徒の評価が職員にフィードバックされる効果があったと思われる。しかし、アンケート評価はそれほど高くないため、チェック体制をさらに整える必要がある。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策が収まりつつあるが、人と接するときのマナー・エチケットという観点から消毒・マスク・換気等が、いい加減な対応にならないよう取り組んでいきたい。 ・大地震の発生が叫ばれ異常気象による災害が多発している昨今、生徒の安全を守り、自らの命を守り、他者の命を守れる行動がとれる青年を育成していくために、生徒会主体の啓蒙活動や防災係のリーダー性を高めるため、自身の体験・取り組みを増やしていけるよう計画・立案していきたい。 ・様々な角度から清掃をチェックしてもらい、生徒・職員で「きれいな学校」を意識できるようにしていきたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<ul style="list-style-type: none"> ・災害は必ず来るという前提で対応を計画しておくことはとても重要である。共助・公助ということも大切だが、自助ということが基本にあって、共助・公助も生きてくる。 ・生徒は学校で過ごす時間が長い。非常時の対応について訓練を行い、改善すべきことがあればやり方を変えて見るなどの工夫をすることは重要である。PDCAサイクルの中で、生徒の防災意識を高めていくよう取り組んでほしい。

【⑥ 図書情報部】

3 評価する領域・分野	◇ 読書指導・視聴覚機器整備・情報・著作権教育・芸術鑑賞	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に興味をもつ生徒が比較的多いのだが、自身で図書を購入しているが、それに比べて図書館利用者は少ない。⇒学校評価アンケート29（生徒）30（保護者）の「本校の施設・設備は学習環境の面ではほぼ満足できる。」のC+D項目（あまりあてはまらない・まったくあてはまらない）の回答が多かった ・ほとんどの生徒がスマートフォンを持ち、SNS、LINE、メールなどに時間を取られ、読書をする時間が少ない。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 (1) 読書指導を推進し、図書館内の環境整備に努める。 (2) 図書委員会が自主的に活動できるよう支援する。 (3) 「情報発信」の場所としての図書館のあり方を考える。 2 (1) 体育館や視聴覚教室での、LHR、総合的な学習の時間、各教科の授業を支援する。 (2) 芸術鑑賞会が円滑に運営できるよう選定・企画・実施をする。 3 (1) 情報リテラシー教育・著作権教育を計画的に行い、情報モラル意識を養い、情報化社会への対応を促す。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ol style="list-style-type: none"> 1 図書運営委員会を中心とした、生徒のリクエストも反映した選書を行い、図書委員会を通じて読書の啓蒙活動を行う。 2 視聴覚機器や視聴覚室の積極的な活用を促進するために、視聴覚機材や放送機材のメンテナンスに気を配り、整備を行う。また芸術鑑賞会として、生徒が鑑賞するのにふさわしい演目を選定し、円滑に運営できるよう、学年会とも連携して計画・実施する。 3 情報化社会に対応できるような、情報リテラシー教育及び情報発信に関わる著作権教育について、各教科・分掌・学年と連携をとって計画的に実施する。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	11 評価
<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒や職員の意見を聞いて、図書館を利用しやすいよう整備し、図書委員による貸出し、広報活動を行う。 2 校内の視聴覚・放送設備を整備し、授業などで使いやすいう支援する。 3 情報リテラシーや著作権の教育、またSNS上のルール遵守を呼びかける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 貸し出し統計や希望図書アンケートなどを分析し、貸し出しの増加と利用度を確認する。また生徒の意見も取り入れ書架や図書などの配置が学校の実情に合っているかどうかを確認する。 2 視聴覚・放送設備についての意見を収集する。 3 アンケートやLHRで情報リテラシーや著作権問題についての生徒の状況を確認する。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ol style="list-style-type: none"> 1 ① 図書委員会を中心とした広報活動。 ② 職員・生徒対象の希望図書の調査。 2 視聴覚・放送機器の点検と整備 3 情報リテラシー・著作権などの啓発活動。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度より図書館利用が増加したか。本校の実情に応じた図書館のデザインができたか。 2 視聴覚機器や放送機器が使いやすいものであるか。 3 生徒・教員に情報モラルの遵守が啓発できたか。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
12 成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○読書週間などを利用して啓蒙活動を行ったが、貸し出し冊数は伸びなかった。希望図書アンケートや店頭選書などで生徒が希望する図書を整備できた。 ○職員の意見を聞きながら、視聴覚・放送設備の整備は効果的にできた。（視聴覚室のプロジェクター・アンプ整備など） ○芸術鑑賞は4年ぶりに全校で実施することができ、事後のアンケートの結果も好評であった。 ○全学年で情報モラルLHRの計画を立てて実施することができた。職員に対しても著作権遵守についての啓蒙ができた。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>	

	<p>▲アンケートの結果をふまえ、図書を整備していく。また図書館での行事を考え、認知度を上げていく。</p> <p>▲視聴覚設備（視聴覚室・体育館）の整備を進める。</p> <p>▲生徒への情報モラル教育をさらに充実していく必要がある。また他校の著作権侵害の事例をふまえて著作権教育を職員・生徒に徹底していく必要がある。</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>1 さらに利用しやすい図書館を考えて、図書委員の自主的活動を進め、生徒のニーズを研究して「生徒自身による生徒のための図書館」を目指す。</p> <p>2 老朽化している体育館の視聴覚設備について、改修計画も含めて全校規模で考えていく。</p> <p>3 情報モラル教育の全校的な計画を考える。講話や研修で、生徒・職員への著作権教育の徹底を図る。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書についての生徒の興味関心の低さは悩ましいが、特効薬のない難しい問題である。 ・漫画を入れてほしいという声アンケートにも多く見られているが、日本の漫画には優れたものもある。内容的に難しいことをかみ砕いて書かれているものもあり、うまく活用していくことも読書へとつながる対策の一つではないか。

【⑦ 渉外部】

3	評価する領域・分野	◇「組織運営」「保護者、地域連携」		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・4年ぶりに保護者向け校外研修（大学見学）を開催し、愛知県内の2大学を30名ほどの保護者で見学した。アンケート結果は非常に好評で、今後も続けていきたい。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇任意団体としてのPTA事業や組織の精選や改善を考えていく。 ◇ネットを活用してのPTA、同窓会事業にさらに取り組んでいく。 ◇同窓会の組織やホームページの展開を見直していく。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA役員会、同窓会役員会の充実		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 文書、ホームページ、メールでの事業の通知 (2) PTAだより等での事業の報告	(1) 各事業への参加者の人数 (2) 参加者からのアンケート結果		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	・PTA活動を精選し、文化祭企画や挨拶運動などに取り組んだ。また、本部役員の削減も行った。 ・PTA総会はICT機器も活用し、ハイブリッドで開催することができた。 ・加入確認の必要性と対応が課題となっている。 ・同窓会は役員組織などを見直しに着手できた。同窓会総会を4年ぶりに開催したが参加者が少なく、今後方式等改善が必要である。	① 役員会等の開催 ② PTA、同窓会事業	A ② C D A ② C D	
12	成果・課題	○PTAについては、本部役員を削減するなど、組織や会議の縮小を図ることができた。事業についても保護者向け校外研修を開催することができた。 ○PTA、同窓会とも役員会の方々が大変協力的で、事業の円滑な進行ができています。 ▲PTAや同窓会の加入確認について、今後検討が必要である。		総合評価 A ② C D
13	来年度に向けての改善方策案	・PTAや同窓会の加入確認のため、活動の意義の周知に取り組む。 ・少子化や学校規模縮小の流れの中で、PTAや同窓会の組織や事業の精選・改善を考えていく。 ・ネットを活用してのPTA、同窓会総会や事業などにさらに取り組んでいく。 ・同窓会の組織やホームページの展開を見直していく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】
・同窓会について、役員の年齢が上がっており、若返りをしていく必要があるのではないかという学校の心配は理解できる。

【⑧ 教育相談部】

3	評価する領域・分野	◇ 教育相談	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談事に親切に対応してくれる」では、生徒の70%弱が肯定的で、18%がわからないと回答している。 ・「保護者の悩みや相談に適切に対応している」では、保護者の60%弱が肯定的で、28%がわからないと回答している。 ・「個々の生徒の相談に丁寧に応じている」では、保護者の60%弱が肯定的で、30%弱がわからないと回答している。 ・個人情報の問題もあり、相談に関わった生徒以外は、状況を知る機会はないと考えられる。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 問題を抱えた生徒に対する早期対応を目指し、生命を尊重し豊かな人間性と望ましい人間関係の確立を促すための、連携を密にした相談活動を展開する。 (2) 各種検査、「日常生活に関するアンケート」を実施し、自立や自己実現の援助ができる活用を促す。 (3) 特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズに応じて研修会を開き、組織的に対応する。 	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室、学年会と有機的な連携をとり、情報交換会において名前の挙がる生徒について、管理職、部長を交え組織的に方策を練り、担任を支援する体制。 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校生活への適応のため特に1年生に対しては、中学校との情報交換も交え観察しながら援助を進めていく。校内、家庭、外部機関との連携を密にする。 (2) 各種検査、アンケートを実施し、生徒の自己理解を促すと共に職員の生徒理解に役立てる。 (3) 特別支援教育の企画運営を行い、研修会を開催し、適切な支援のあり方を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 常に最新の情報を共有し、連携を取り、生徒を援助しているか。 (2) 各種検査やアンケート結果をもとに、生徒理解がなされ喫緊の問題に対応できているか。 (3) 研修会が実りあるものとなり、特別支援が必要な生徒に、適切に支援できたか。 	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の初期指導としての構成的グループエンカウンターの手法を用いたクラス開き ・年9回のスクールカウンセラーの活用事業の計画と、援助を必要とする生徒及び保護者の支援 ・教育相談便り（相談室紹介、SC日程、教育実習生のお悩み克服談等）による情操の涵養 ・学年会、情報交換会等における問題を抱える生徒の情報収集と迅速な対応 ・「クレペリン検査」、「i-check」、「日常生活に関するアンケート」の実施による生徒理解や問題の把握 ・本校SCによる「高校生とゲーム」についての研修会 	<ol style="list-style-type: none"> ①問題を抱えた生徒に対して適切な支援ができたか。 ②担任や学年会と連絡が密にできたか。 ③各種検査やアンケート分析結果が生徒理解に資するものとなったか。 ④特別支援教育が必要な生徒の情報収集及び支援ができたか。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>
12	<p>○1年生の初期指導として、構成的グループエンカウンターの手法を用いたクラス開きを行うことができた。</p> <p>○校内及び家庭との連携を図り、状況を分析しつつ機会や役割を考え組織的な援助を実践することができた。また、保護者からの相談に対して担任と共に面談をし、継続的な相談に応じた。</p> <p>○生徒の抱える問題について随時ケース会議、教科担任会議で共通理解を図り支援に繋げた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>	

<p>○週3日スクール相談員が常駐するようになったことで、生徒や保護者を受け入れる体制ができ、じっくりと話を聞き支援することができた。</p> <p>○県からの指示による「心のアンケート」に「日常生活に関するアンケート」も盛り込み、年4回実施した。コロナ禍における生徒の困り感を拾い、担任とともに生徒の問題を迅速に把握し対応できた。</p> <p>○「クレペリン検査」においては、専門家によるデータ分析結果説明会を開催した。</p> <p>○SCによる職員研修会では、「高校生とゲーム」についての理解と、生徒に関わるときの考え方について研修した</p> <p>▲「教育相談便り」の発行回数が減少した。</p>	
--	--

<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室登校、不登校問題に対処するため外部機関との連携を強め、ネットワーク作りも意図して進める。 ・個人差が多く多様な生徒のニーズに応えられるように、引き続き教員の資質向上及び共通理解を図る。 ・迅速な対応、専門機関への受診など、専門家のSCによるカウンセリング相談の日数が増えるとよい。
--

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果をきちんと分析して生徒の特性をつかんでいる。高校に限らず、中学校でも不登校は増えており、集団の中にいることがつらいという生徒が増えている。
--

【⑨ 地域課題探究型学習（ふるさと教育）】

3 評価する領域・分野	◇ 総合的な探究の時間（地域課題探究型学習）
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の約68%が地元の各務原市内の中学校出身であり、卒業後も地元に残る生徒が多い。 ・昨年度の学校評価アンケートでは「総合的な探究の時間の内容は自分にとって有意義である。」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合は57.4%で、総合的な探究の時間に実施している地域課題探究型学習を肯定的に捉えていた生徒は6割弱程度であった。 ・また、同アンケートにおいて「総合的な探究の時間などの学校の活動を通して、地域（各務原市）に興味・関心をもっている。（または、もつようになった。）」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合も60.6%で、同学習がふるさとへの愛着につながると感じる生徒も6割程度であった。 ・上記のことから、地域をフィールドとした探究型の学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を図る地域課題探究型の学習について、引き続き総合的な探究の時間を活用して教育活動に位置付け、継続的に指導していく必要がある。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 1年生には、探究の見方・考え方を働かせた横断的・総合的な学習を行うことで、探究のプロセス（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を身に付けさせる。 ◇ 2年生には、地域をフィールドとした協働的な探究型学習を位置付けることで、地域の魅力を知るとともに、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部に探究全体の担当及び各学年の探究担当を置くことで、組織的に探究活動を行うことができるようにする。
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標

<p>【地域課題探究型学習推進事業の取組として】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は、探究学習の導入として探究のプロセスを学んだ後、実際に地域の課題を見つけ、理想の地域を実現するための解決策を提案する活動を位置付ける。 2年生は、地域をフィールドにグループでSDGsの視点からテーマを設定し、課題解決に取り組む地域課題探究型学習を位置付ける。各務原市役所企画政策課と連携し、校外でのフィールドワークも実施しながら探究活動を進め、年度末に発表会を行う。 3年生は、進路に関する様々な取組を行うことで、自己の在り方生き方を考え、進路実現につなげる。 	<p>(1) 「学校評価アンケート」や「高校生の意識に関する調査」の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の内容への満足度 総合的な探究の時間などの活動と地域や社会への興味・関心の関連 <p>(2) 生徒の探究型学習の発表の内容やその様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的・協働的な学習の成果 自己の在り方生き方との関連 <p>(3) 進路実現の状況から</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> Locusを用いて、探究のプロセスを学んだ。その後、そのプロセスを活かして「理想の各務原市」を提案する活動を行った。その他、次年度に向けて、慶應義塾大学教授等による「Z世代によるSDGsワークショップ」や「SDGs地方創生カードゲーム」を実施した。 <p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ単位でSDGsの視点からテーマを設定して、地域をフィールドとした探究活動を行った。各務原市役所企画政策課の協力を得て、各務原市内のSDGsパートナーである企業や団体と連携した活動を行った。 <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の在り方生き方見つけを含む進路に関する各種対策を行い、進路指導につなげた。 	<p>① 地域課題探究型学習が自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し解決する資質・能力の育成につながり、進路実現に活かされたか。</p> <p>② 同学習において学んだことが、地域への愛着や、地域社会の一員としての自覚や行動力につながったか。</p> <p>③ 探究担当を中心に組織的に探究活動を進められたか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>※「R5高校生の意識に関する調査」の結果「自分にはよいところがあると思う。」81.3% 「将来の夢や目標を持っている。」62.5%</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>※「R5高校生の意識に関する調査」の結果「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある。」34.4%(前年度比+1.1%)</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生では、教材を活用しながら探究のプロセスを学ぶ時間を作った結果、課題の設定から情報収集、整理・分析、まとめ・表現の流れを知ることができた。また、外部講師を招き、SDGsの視点から社会における課題を考えるワークショップ等を位置付けたことで、自己の在り方生き方を考えることができ、意識の変容につながった。 ○ 2年生では、各務原市の協力を得ながら、地域の企業や団体と連携した活動を行ったことで、実際に体験を通して探究活動を深めただけでなく、地域社会の一員としての自覚につなげることができた。また、総合的な探究の時間で行った探究活動をさらに深めたいと週末にボランティアで企業主催のイベントに参加したり、自主的に探究の成果を発表したりする姿が見られ、社会貢献する喜びを実感した生徒もいた。 <p>▲ 進路指導や教科・科目の学習との連携等、学校の特色化のための校内体制の整備。</p> <p>▲ 地域や関係機関における協力体制の確立及び探究活動を充実させるための予算の確保。</p>		<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>

13 来年度に向けての改善方策案

- ・ 地域探究型学習の推進にあたり、校内の体制がより組織的なものとなるよう整備する。
- ・ 同学習の内容については、教科・科目等横断的な視点も取り入れていく。
- ・ 同学習を進めるにあたっては、地域や関係機関の協力を仰ぎながら、人的及び物的な体制の確保に努める。(市長講話を聴き、市長へ提言する・優秀な発表をした班と市長との懇談も可能ならば行う。)

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・ こうした活動は中学校、中学生に対する各務原高校のアピールとなる。
- ・ いろいろと尽力されているので、自己評価でAがつけられる項目が出てくるとよい。
- ・ いろいろな人とのつながりの中で、通常の学習で得られないことを学んでほしい。
- ・ 自分の高校生の時のイメージと比べて、体験を通して学ぶ機会が増えていると感じた。
- ・ コミュニケーションが苦手な集団の中にいるとプレッシャーを感じる生徒の話が会の中で出てきたが、生徒の表現力を高めていこうとしている点でも、ふるさと教育はすばらしい。
- ・ スクール・ポリシーには総合的な探究の時間の活動と密接に関わる部分がある。今後もスクール・ポリシーを軸にして教育活動を実施し、生徒を成長させてもらいたい。